

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2018年3月)

発表日2017年5月23日(水)

～1-3月期でマイナスとなるも、鉱工業生産を中心に緩やかな回復を見込む～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 小池 理人
TEL : 03-5221-4573

(単位: %)

		全産業活動指数									
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		建設業活動指数	
年	月	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
16	8	0.4	1.7	0.1	1.0	1.3	4.5	-0.2	1.8		
	9	-0.1	1.2	-0.2	0.9	0.3	1.5	0.6	4.2		
	10	0.1	-0.2	0.1	-0.2	0.3	-1.2	-0.6	2.4		
	11	0.3	2.1	0.2	1.4	1.0	4.4	-1.0	2.2		
	12	0.0	1.2	-0.1	0.7	0.7	3.1	-1.1	1.0		
17	1	0.0	1.2	0.0	0.7	-1.1	2.8	2.7	2.6		
	2	0.2	-0.1	0.0	-1.4	1.0	4.3	0.1	2.0		
	3	-0.4	0.9	-0.3	0.1	-0.5	3.3	-0.4	3.1		
	4	1.6	2.2	1.1	0.9	2.9	5.7	4.0	7.9		
	5	-0.4	3.1	-0.1	1.9	-2.1	6.2	2.8	8.9		
	6	0.1	2.1	-0.1	1.0	1.2	5.2	-2.3	7.1		
	7	0.0	2.0	0.1	1.0	-0.3	4.5	0.0	6.8		
	8	0.2	1.7	0.1	0.7	1.3	5.0	-1.1	4.7		
	9	-0.3	1.0	-0.2	0.6	-0.6	2.5	-0.8	1.6		
	10	0.2	1.8	0.1	0.9	0.5	5.7	-0.4	1.8		
	11	0.6	1.7	0.7	1.2	0.7	3.6	0.4	2.8		
	12	0.5	2.0	0.1	1.4	1.8	4.5	-0.1	3.0		
18	1	-1.1	1.8	-0.4	1.4	-4.5	2.9	0.2	2.1		
	2	0.4	1.1	0.1	0.9	2.0	1.6	-0.5	1.3		
	3	0.0	1.1	-0.3	0.8	1.4	2.4	-0.8	1.1		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 3月の全産業活動指数は前月比で横ばいとなるも、1-3月期ではマイナス

2018年3月の全産業活動指数は前月比0.0%と、ほぼコンセンサス(同+0.1%、レンジ: 同▲0.1%~+0.5%)通りの結果となった。内訳をみると、鉱工業生産指数が前月比+1.4%(寄与度+0.28%ポイント)とプラスに寄与した一方で、第3次産業活動指数は前月比▲0.3%(寄与度▲0.21%ポイント)、建設業活動指数は前月比▲0.8%(寄与度▲0.05%ポイント)とマイナスに寄与した。建設業については、公共・土木部門がプラスとなる中、民間・建築住宅が足を引っ張る形となった。

全産業活動指数は前月比では横ばいとなったが、1-3月期の動きは前期比▲0.4%と弱い動きとなった。これまで緩やかな上昇基調を維持していた全産業活動指数だが、年明け以降はいったん足踏みとなった。5月16日に公表された1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率▲0.6%と9四半期ぶりのマイナス成長と弱い動きとなったが、供給面の活動を示す全産業活動指数においても、そのことが改めて確認された形だ。

○ 第3次産業活動指数は前月比▲0.3%

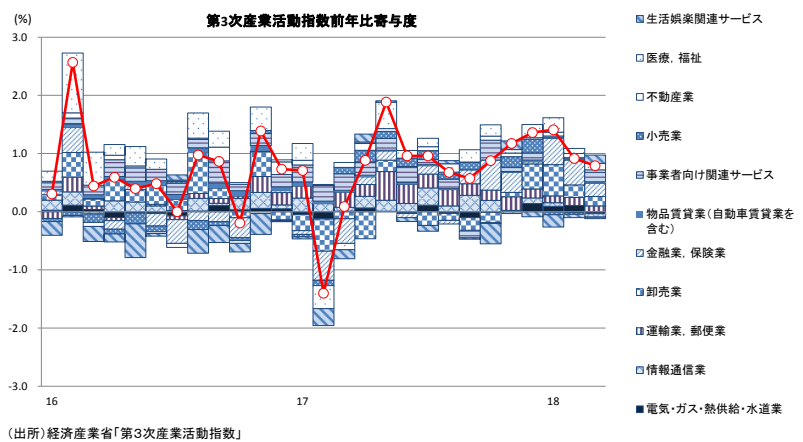
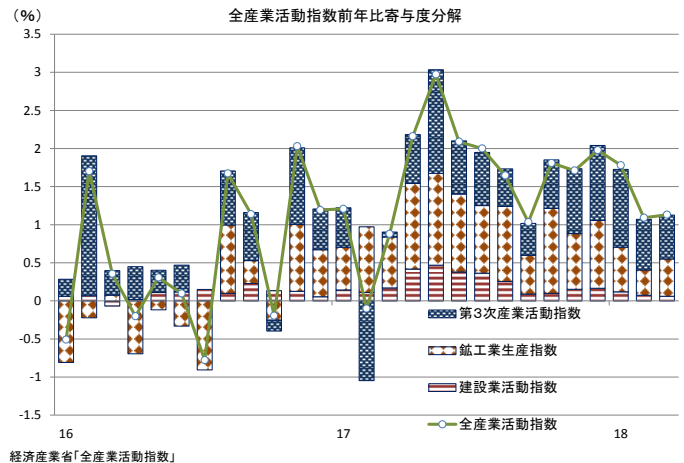
3月の第3次産業活動指数は前月比▲0.3%と2ヶ月ぶりの低下となった。3月にプラス寄与となったのは、事業者向け関連サービス(前月比+2.7%、前月比寄与度+0.21%ポイント)、卸売業(同+0.8%、同

寄与度+0.12%ポイント)、運輸業、郵便業(同+0.3%、同寄与度+0.03%ポイント)など4業種であった。一方で、マイナスに寄与したのは、金融業、保険業(前月比▲3.2%、前月比寄与度▲0.33%ポイント)、情報通信業(同▲1.3%、同寄与度▲0.14%ポイント)、電気・ガス・熱供給・水道業(同▲4.7%、同寄与度▲0.13%ポイント)など7業種であった。

機械設計業が好調であった事業者向け関連サービスや2月の下落から反発した卸売業が前月比プラスとなり、第3次産業活動指数を押し上げた。一方で、流通業務が不調であった金融業、保険業や情報処理・提供サービス業が不調であった情報通信業などが前月比マイナスとなり、結果として3月分の第3次産業活動指数は前月▲0.3%となった。

○ 先行きも生産の回復などを背景に持ち直す見込み

全産業活動指数は、先行きについては緩やかに回復する見込みだ。鉱工業生産指数は、1-3月期は前期比▲1.4%と弱い動きとなったものの、海外経済が好調に推移していることに加え、製造工業生産予測指数で先行きも増産が見込まれていることを踏まえると、4-6月は回復する可能性が高いとみられる。第3次産業活動指数は、1-3月は消費関連の弱さが目立ったが、賃金の上昇や雇用者数の着実な増加を受けて、先行きは緩やかに回復するだろう。建設業活動指数については、住宅着工の件数減少を中心に軟調な動きが続くとみられる。総じてみれば、全産業活動指数は、第3次産業活動指数や鉱工業生産指数の回復を中心に、先行き緩やかに回復することが予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。